

# 外国人患者に対する看護ケアの実践と困難感に関する調査

## Survey on Practice and Difficulties in Nursing Care for Foreign Patients

荒川満里奈<sup>1)</sup>, 岩澤萌夏<sup>1)</sup>, 鈴木楓奈<sup>1)</sup>

指導教員：山本君子<sup>1)</sup>, 吉田 稔<sup>1)</sup>

1) 東京純心大学 看護学部 看護学科 山本ゼミナール

キーワード：在日外国人，日本人看護師，看護ケア，コミュニケーション，文化

### I. 緒言

国内に住む外国人は2021年6月現在で約282万人となっている。我が国では国家成長戦略として世界経済との統合や、積極的な外国人人材の受け入れ、外国人観光客に対するアピールを実施している。そのため、今後訪日及び在日外国人は増加していくことが予測される。訪日及び在日外国人が日本の医療機関を利用する機会はそれに伴い増加していくと考えられ、外国人患者の日本の医療に対するニーズは高い。

外国人患者が日本の医療機関を受診、入院する際には、様々な困難を実感おり、医療現場では異文化体験の様相に関する研究が求められている。外国人患者が日本の医療機関を利用するにあたって外国人患者が感じている異文化体験に対して日本の看護師はどのように対応しているのか、またどのような課題を感じているのかということを明らかにすることは外国人患者に対する看護ケアする上で新たに必要とされる能力や視点となる。

### II. 目的

本研究は外国人患者を受け持った経験のある看護師とない看護師を対象に、外国人患者との関わり方や課題を調査し、看護師が在日外国人患者に対して看護ケアを行う上での困難感を明らかにするとともに対応策について考察する。

### III. 研究方法

#### (1) 研究デザイン

研究デザインは郵便調査法、Googleformを使用したWebによる無記名記述式アンケート調査を行う。

#### (2) 研究対象者

本調査に対する同意を得られた東京都内および八王子市内の病院で働いている看護師を対象とする。年齢、勤続年数、役職、在日外国人患者の受け持ち経験の有無に関して限定しないものとする。

#### (3) 研究概要

調査項目としては、外国人患者を受け持った経験がある看護師への質問は

- ① 療養生活上における言語的コミュニケーションを図る上で、不安や課題を感じたことがある。
- ② 異文化による生活習慣の違いから、食事や病院のルール、安全性（ナースコールを押して看護師を呼ぶことや、入院中の院外への外出についてなど）について理解してもらうことに課題を感じたことがあるか。
- ③ 病院における規則や暗黙の了解（面会時間の決まりや入院中の院外への外出制限、必要書類の手続きなど）に対する外国人患者の理解度の不足に関して課題を感じたことがある。

- ④ 外国人患者が属する宗教がある場合、宗教上の習慣や関わりについて課題を感じたことや不安に感じたことがある。
- ⑤ 外国人患者の療養生活（外国人患者に対する治療、手術などの医療行為、処置、服薬など）に対して理解してもらうことについて、課題を感じたことがある。
- ⑥ 外国人患者に生じている症状の表出、抱えている不安や日常生活上での希望などに関する自己主張、感情の表現に対して感じたことがある。

上記の質問に対して、「当てはまる」、「やや当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」の4段階評価を行う。さらに「外国人患者の看護に有効であると感じた能力」、「外国人患者の看護を行った上で何らかの対応が必要であった場面」について自由記載方法にて行う。

一方、外国人患者を受け持った経験のない看護師に対しては「外国人患者へのコミュニケーションをとる上で不安に感じていること」、「外国人患者との関係構築をする上でどのような課題があるか」の2つの項目について自由記載方法を行う。

#### （4）分析方法

Googleformの機能を活用し、選択肢ごとに結果を振り分けて集計する。統計はカイ二乗検定を用いて4段階評価による質問項目それぞれの発生頻度や度数の偏りの有無を調べ、性別や職歴、外国人患者の受け持ちの有無や外国人患者の国籍と日本語レベルから分析する。

## IV. 倫理的配慮

- 1) 研究倫理委員会の承諾を得る。
- 2) 自由意思による研究協力への承諾を得る。
- 3) 個人情報の取り扱いは個人情報保護のため、情報は鍵のかかるデスクに保管し、本研究対象者以外は見ることができないように厳重に保管する。研究結果を論文やその他の方法で公表する際、個人が特定できる情報は全て記

号化し、匿名性が保持できるように配慮する。

- 4) 研究対象者に生じる利益については研究に参加・協力することによる個人としての期待される利益はない。
- 5) 研究対象者に生じる不利益について及び当該不利益等を最小化する対策はアンケートの回答は約20分程度を要するためにその時間が負担になることは否めないが、このアンケートによって、対象者である看護師に直接的に身体侵襲や心的負担をかけるものではない。アンケートに回答することによって、個人の時間を使用する及び自己犠牲を生じた場合は、アンケートを中止し、協力を取りやめていただく。

## V. 参考文献・引用文献

- 1) 原明子・柳澤理子(2020), 日本人看護師が外国人患者をケアする上で必要な能力：文献レビュー, 愛知県立大学看護学部紀要 Vol. 26, 17-28, (2020)
- 2) 濱野里紗・永尾恵・松野多希子・久保江律子・渡邊恵代・松田純一・花島まり・三谷伸之・久我貴之(2022), 英語を母国語としない外国人 covid-19 患者の看護支援の困難性と対策, 日農医誌 70巻 5号 535~542頁 (2022. 1)
- 3) 野口千春・樋口まち子(2010), 在日外国人患者と看護師との関係構築プロセスに関する研究, Journal of International Health Vol. 25 No. 1 (2010)
- 4) 寺岡三左子・村中陽子(2017), 在日外国人患者が実感した日本の医療における異文化体験の様相, 日本看護科学会誌 J. Jpn. Acad. Nurs. Sci., Vol. 37, p. 35-44, 2017
- 5) 井部俊子他(2007), 看護にかかわる主要な用語の解説—概念的定義・歴史的変遷・社会的文脈—, 社団法人日本看護協会, p. 13